



総理大臣表彰

二つの永井隆記念館②

個人の功績を後世に伝えるために公営の記念館が二つあるのは珍しい。長崎市立記念館に続いて永井隆博士が幼少の十年間を過ごした島根県三刀屋に記念館が建てられたのは昭和四十五年。当初は三刀屋町立であったが、平成の大合併で現在は雲南市立記念館となった。

三刀屋の記念館には昭和二十五年六月、後にノーベル賞を受賞する湯川秀樹博士と一緒に内閣総理大臣表彰を受けた時の表彰状が展示してある。永井博士の功績を知らない人も多くなったのでその全文を紹介する。

「表彰状」
永井隆 永井隆の生誕百年に当たる平成二十年は記念館前に如己堂の複製も建てられた。

ている。
永井隆の生誕百年に当たる平成二十年は記念館前に如己堂の複製も建てられた。

ながい たかし 永井 隆 博士



平和を願いつづけ
自分のように
隣人を愛した人

記念館のパンフレットから

常に危険を冒して放射線医学の研究に心血を注ぎ、遂に放射線職業病の一つである慢性骨髄性白血病の発症と闘ったが、なお不屈の精神を振り起して職務に精励し、学界に貢献したことは他の模範とすべきである。たまたま原子爆弾に負傷し、病床につき身となった後は著述に力を尽くし「長崎の鐘」「この子を残して」等幾多の著書を出して社会教育に寄与するところ少くなくその功績顕著である。よってここにこれを表彰する。

先日、なでしこジャパンが受賞した国民栄誉賞は昭和五十二年に始まったものだが、それより二十七年も前に国会の表彰勧告に基づいて表彰されたことを私は全く知らなかった。

このほか年譜によると昭和二十四年には昭和天皇が病床を見舞われ、教皇特使の枢機卿やヘレン・ケラー女史も如己堂を訪れた。長崎名譽市民第一号、三

三刀屋に出かける前に、妻が本箱から「路上の人」という冊子を見つけてくれた。永井博士が弟と一緒につくった日本二十六聖人の紙芝居を殉教四百年を記念して小冊子にした

もので、あとがきはこの紙芝居の原画は三刀屋記念館に展示してあるとあった。
館内でそれを見つけしたが、絵にしる、書にしる何か人を引きつけるものがある。
永井隆といえは「長崎の鐘」。これをモチーフにサトウ・ハチローが作詞し、古関裕而が作曲した「長崎の鐘」は空前のヒットとなり、芝居や映画にもなった。
もう一度「長崎の鐘」を読もうと思ったが、我が家の本箱には見当たらない。止むなく下松市の図書館に出かけたが「貸出し中」とのこと、今も読む人がいるのだとうれしくなった。



故郷の友人などに出したはがきや手紙がたくさん展示されている